

問1 インドは近年、世界有数の国内総生産（GDP）を誇る経済大国となりましたが、1人あたりの国内総生産を計算すると、他の主要経済国に比べて低い数値にとどまっています。このように、国の経済規模は大きいのに、1人あたりの数値が低くなる背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 富山公立入試 類似）

1. 分母となる総人口が極めて多いため、国民1人に行き渡る経済的豊かさが統計上小さくなるから
2. 輸出の大部分をコーヒー豆やカカオなどの特定の農産物に依存するモノカルチャー経済だから
3. 国内に石油や鉄鉱石などの天然資源が全く存在せず、すべての原材料を輸入に頼っているから
4. 経済成長が1980年代で止まっており、2000年代以降は国内総生産が減少し続けているから

問2 東南アジアの国々に加え、日本、オーストラリア、アメリカ、カナダ、ロシア、中国、韓国などが含まれる、太平洋を囲む広範囲の国々による経済協力の枠組みを日本語で何というか。（2016年 北海道公立入試 類似）

1. アジア太平洋経済協力会議
2. 東南アジア諸国連合
3. 環太平洋パートナーシップ協定
4. 北米自由貿易協定

問3 東南アジア諸国連合（ASEAN）の一員であるベトナムの経済的な特徴について、各国の経済状況を説明した次の文のうち、ベトナムに該当するもの一つを選びなさい。（2021年 新潟県公立入試 類似）

1. 外国からの直接投資や企業進出を積極的に受け入れることで、工業化を推進している。
2. ペルシア湾岸に位置する資源国であり、原油の輸出が国家財政の大部分を占めている。
3. 欧州連合（EU）に加盟しており、共通通貨の導入によって近隣諸国との経済統合を進めている。
4. アンデス山脈などの広大な高地において、伝統的な放牧を中心とした産業を営んでいる。

問4 2017年の統計において、鉄鉱石の輸入量のシェアが世界全体の68.2%に達し、2位の日本（8.0%）を大きく引き離して世界最大となっている国と、その背景として正しい説明はどれですか。（2021年 京都公立入試 類似）

1. 中国 — 急速な工業化や都市開発にともない、鋼鉄の原料となる資源の需要が爆発的に増加したため。
2. オーストラリア — 自国に鉄鉱石が全く存在しないため、ブラジルなどから大量に輸入して工業製品を製造しているため。
3. 中国 — 資源の輸出量でも世界最大を目指しており、輸入した鉄鉱石をそのまま他国へ転売する中継貿易が盛んなため。
4. 日本 — 高度経済成長長期以降、現在も鉄鉱石の輸入量が中国を上回るペースで増え続けているため。

問5 インドネシアやタイなどの国々が加盟する東南アジア諸国連合（ASEAN）が、その結成や活動において重視している点として、最も適切な説明を選択してください。（2023年 和歌山公立入試 類似）

1. 経済、社会、文化面での協力を促進し、地域の平和と安定を維持すること
2. 加盟国間で共通の通貨を導入し、政治と経済の完全な統合を目指すこと
3. 太平洋を取り囲む国々全体の経済的な結びつきを強め、自由貿易を推進すること
4. 特定の資源の産出量を制限することで、国際市場における取引価格の安定をはかること

問6 中国において1970年代末から2015年まで実施された、急激な人口増加を抑えるための「一人っ子政策」と、その後の社会状況について述べた文として、最も適切なものを選択しなさい。（2020年 山口公立入試 類似）

1. 人口の抑制には成功したが、現在は急速な少子高齢化が進み、将来の労働力不足が課題となっている。
2. 人口抑制の効果がほとんど見られなかったため、現在も都市部に限って継続されている。
3. 経済特区での労働力を確保するために、農村部から都市部への移住を強制的に制限する制度であった。
4. 外国企業の誘致を目的として、都市部の家庭に子どもを一人にするよう義務付けた制度である。

問7 インドネシアなどの熱帯地域で見られる、あぶらやしを生産する「プランテーション」と呼ばれる農業形態の説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 長崎公立入試 類似）

1. かつての植民地支配を背景に、現地の安価な労働力と欧米の資本・技術を用いて、特定の輸出作物を大規模に栽培する農業。
2. 自給自足を目的に、限られた家族労働力を用いて、多種類の穀物や野菜を小規模な農地で栽培する農業。
3. 乾燥した気候に適応するため、地下水路やオアシスの水を利用して、小麦やナツメヤシなどを栽培する農業。
4. 先進国の大都市近郊において、土地を高度に利用し、消費者の需要に合わせて野菜や花などを生産する農業。

問8 中国政府が沿岸部の特定の地域を経済特区に指定し、外国企業に対して税制上の優遇措置を与えた主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. 外国からの資本や高度な技術を導入することで、自国の工業化と経済発展を促進するため
2. 国内の農村部から都市部への人口移動を厳しく制限し、食料自給率を維持するため
3. 特定の地域において少数民族の伝統的な文化や言語を保護し、高度な自治を認めるため
4. 外国製品に対する関税を高く設定することで、国内の伝統的な地場産業を保護するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 分母となる総人口が極めて多いため、国民1人に行き渡る経済的豊かさが統計上小さくなるから	1人あたりの国内総生産（GDP）は、国全体のGDPを総人口で割ることで算出されます。インドは世界最大級の人口を抱えているため、国全体の経済規模がどれほど大きくても、1人あたりの数値は低く算出される傾向にあります。これは、急速な近代化が進む一方で、農村部を中心に依然として多くの人口が生活しているという、新興国特有の課題を反映しています。モノカルチャー経済の説明はアフリカやラテンアメリカの一部の国に当てはまるものであり、インドの現状とは異なります。
問2	答え 1 アジア太平洋経済協力会議	略称をAPECといいます。設問にあるように、東南アジア諸国連合（ASEAN）の加盟国だけでなく、太平洋を挟んだ南北アメリカ大陸の国々やオセアニア、ロシアなども参加する非常に広域的な枠組みであることが最大の特徴です。環太平洋パートナーシップ協定（TPP）は、より高いレベルの自由化を目指す別の経済連携協定です。
問3	答え 1 外国からの直接投資や企業進出を積極的に受け入れることで、工業化を推進している。	ベトナムは、周辺国との経済的な連携を強化するためASEANに加盟し、外国企業の工場を積極的に誘致する政策をとっています。これにより、電気機器や衣類などの輸出が増加し、目覚ましい経済発展を遂げました。他の選択肢にある「ペルシア湾岸の資源国」は中東諸国、「共通通貨の導入」はユーロを採用する欧州諸国、「高地の放牧」は南米のアンデス山脈周辺国（ボリビアやペルーなど）の説明です。
問4	答え 1 中国 — 急速な工業化や都市開発にともない、鋼鉄の原料となる資源の需要が爆発的に増加したため。	21世紀に入り「世界の工場」と呼ばれるほど急速な成長を遂げた中国は、ビルや道路、橋などのインフラ整備や、自動車生産のために膨大な量の鉄鋼を必要としています。そのため、鉄鋼の原料となる鉄鉱石の輸入において世界全体の約7割という圧倒的なシェアを占めるに至りました。かつて輸入量で大きな割合を占めていた日本は、現在は中国に大きく引き離されています。
問5	答え 1 経済、社会、文化面での協力を促進し、地域の平和と安定を維持すること	1967年の結成当時、冷戦下にあった東南アジアにおいて、周辺国が協力して自立した経済発展を遂げ、地域の安定を守ることが急務でした。そのため、経済・社会・文化の各分野での相互協力を基本方針としています。共通通貨（ユーロ）を導入しているのはEU、太平洋を囲む広域協力はAPEC、資源価格の安定はOPECの説明であり、ASEANの目的とは異なります。
問6	答え 1 人口の抑制には成功したが、現在は急速な少子高齢化が進み、将来の労働力不足が課題となっている。	中国では爆発的な人口増加が経済発展の妨げになると考え、1組の夫婦につき子どもを1人までに制限する「一人っ子政策」を長年実施しました。この政策により人口抑制には一定の成果がりましたが、同時に極端な少子高齢化を招く結果となり、2015年に廃止されました。現在は経済を支える労働力の減少が深刻な社会問題となっています。
問7	答え 1 かつての植民地支配を背景に、現地の安価な労働力と欧米の資本・技術を用いて、特定の輸出用作物を大規模に栽培する農業。	プランテーションは、16世紀以降の欧米諸国による植民地経営の一環として発達しました。インドネシアではオランダによる支配下でこの体制が整えられ、現在も外貨を獲得するための重要な産業となっています。特定の作物（モノカルチャー）に依存するため、国際価格の変動による経済への影響や、農園拡大に伴う熱帯林の破壊といった課題も抱えています。
問8	答え 1 外国からの資本や高度な技術を導入することで、自国の工業化と経済発展を促進するため	当時の中国は、経済を活性化させるために国外の資金や優れた技術力を取り入れる必要がありました。そのため、沿岸部の都市を窓口として開放し、外国企業が活動しやすい環境（インフラの整備や税制優遇）を整えることで、輸出拡大と国内産業の近代化を目指しました。これは「改革・開放」政策の根幹をなす取り組みです。